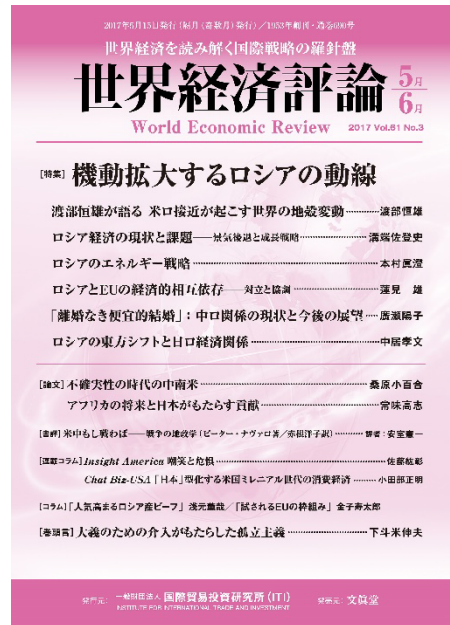


本論文は

# 世界経済評論 2017年5/6月号

(2017年5月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論

# 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF



定期購読  
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

# デジタル版バックナンバー読み放題!!



## 世界経済評論 定期購読



# ☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

## 米中もし戦わば

——戦争の地政学

大阪商業大学教授 **安室 憲一**



【著者】ピーター・ナヴァロ カリフォルニア大学教授

【訳者】赤根洋子

【発行】文藝春秋、2016年11月

【判型】46判・タテ組

【定価】1940円+税

カリフォルニア大学教授のピーター・ナヴァロ氏は、トランプ政権の中で重要な機能を果たす「国家通商会議」のトップに就任した。氏自らが監督した映画「Death By China」は、米国が繁栄を取り戻すためには強い製造業と雇用創出が不可欠だとする。氏の考え方はトランプ大統領に強い影響を与えていると推察される。本書はアメリカの軍事・外交政策、とくに今後の対中政策を占ううえで貴重な情報を提供している。

本書は6つの部と45の章から構成されている。各章は設問形式になっており、それに答える形で議論が展開される。その回答は膨大な情報収集に基づく、客観的視点からなされている。各章は国際政治や軍事に関する既成の事実や学

説で構成され、それ自体は常識に近い。ところが、45の設問に答えるうちに、見えなかった真実、本書の原題のCrouching Tiger（うずくまる虎）の姿が見えてくる。台頭する中国の軍事勢力に対して、どうやって平和を維持するかという課題が恐ろしいほどの迫力で迫ってくる。

本書の内容を詳しく紹介することは避けるが、経済・経営的に重要な2つのポイントを指摘したい。第1は、経済の相互依存が高ければ戦争は防げるという一般常識である。ナヴァロ氏は相互依存が戦争の抑止力にならない場合が多いとして、戦前のアメリカによる対日石油禁輸（真珠湾攻撃の引き金になった）やドイツの第一次世界大戦（対戦相手はドイツの輸出先だった）を取り上げている。相手国に戦略的重要物資（石油や食糧）を依存する場合、禁輸（エンバゴ）は戦争の原因になりうる。第2は、「相互確証破壊」原則である。ソ連と米国は、偶発核戦争が起きないように核ミサイルの情報を交換し、小競り合いや誤解を避けようとした。他方、中国は情報を秘匿し、手の内を見せないことによる威嚇を重視する。この結果、「相互確証破壊」による抑制が働きにくい状態になる。この場合、アメリカが取りうる戦略は「マッドマン・セオリー」であるという。相手が「不透明」戦略でくる場合は、「不確実」戦略で対抗する。つまりアメリカ大統領が「理知的」（手の内が分かる）ではなく、「怒りっぽく、わがままな」人間と思わせるのである。トランプ大統領のパーソナリティーは「マッドマン仮説」にピッタリである。いまトランプ大統領はメキシコや中東と張り合っているが、本当の狙いは中国にあるだろう。中国のGDPの1/3は外資が担っている。米中摩擦の深刻化は、外資の存続に深刻な打撃を与えると同時に、外資の流入停止や撤退は中国経済に破壊的打撃を与える。リスクマネジメントの観点からも本書の一読をお勧めする。（やすむろ・けんいち）